



若木



可能性は無量大

校長 五十嵐 俊子

先週末の運動会には、たくさんのご声援をいただきましてありがとうございました。全力でやりきった達成感と、全校で心をつなげて応援した熱気がまだ残っている中、5月30日に、町五小にパラリンピックの芦田創選手が来てくださいました。全校児童への講演と、5・6年生の体育の実技指導をいただく貴重な機会を得ることができました。

芦田選手は、東京2020パラリンピック大会での活躍が期待される24歳の選手です。右腕にできた腫瘍で5歳から15歳まで闘病生活を送り、治療の過程で右上肢機能障害になりました。次の治療方法は腕の切断しかないとお医者さまに言われ、「それなら腕があるうちにやりたいことをしたい」と陸上を始めたところ、腫瘍は奇跡的に消えたそうです。その後、リオパラリンピック4×100mリレーで銅メダルを獲得、今年の3月には走り幅跳びで7m15cmという日本記録を出し、今は次なる金メダルを目指して頑張っておられます。



★夢を叶えるための見えない努力

「できるかできないかではなく、やるかやらないか。」子供たちは、芦田選手を見つめて真剣に話を聴いていました。「努力しないで成功した人はいない。夢は、思うだけの人や言うだけの人やがんばらない人には叶わない。努力が必要。目の前の壁から誰でも逃げて楽な方に行きたくなる。逃げると夢はどんどん遠くなる。でも、壁を作って乗り越えることが大切。」芦田選手は、努力すること・挑戦することの大切さを話してくださいました。ご自身の身体の右手と左手の重さはペットボトル1本分(2kg)違うので、バランスが崩れないように筋力を付けるトレーニングを、人より多くがんばっている話をしてくださいました。



★現実に向き合い、ポジティブに生きる

「病気と障害は神様からの贈り物だと思って感謝している。自分は幸せだ。」この芦田選手の言葉に子供たちは驚きをもって聴き入っていました。「病気で腕が不自由になったことで、パラ陸上という自分にしかできない経験をさせてもらった。自分自身のもてる力に気付いた。右手が使えないことは自分の個性であると気付いた。ポジティブに考えたらものすごい力になる。人生を面白く楽しくするのは自分次第。人と比べるのではない。」

高学年の子供たちは、体育の実技指導の後、時間切れになるほど熱心に質問をしていました。「子供の頃の自分にかけてあげたい言葉を教えてください。」という質問に、「がんばっていたら絶対にいいことがあるから、今をがんばって！」と答えてくれたのを受け、「悲しいこともたくさんあったと思うけれど、自分を制御し、自分はできるんだと思えるようにがんばれたのはすごいと思う。自分も何かあった時にポジティブに考えて行動できるようにになりたい。」と感想を語った子供の言葉にも感動しました。



芦田選手からたくさん元気いただきました。子供たちには、失敗しても困難なことがあっても、「自分はだめだ」と弱気になったり自己否定したりせずに、現実を見つめた上でポジティブに自分を励まし、前に向かって努力を続けていけるようになってもらいたいと思いました。そのためには、周りの大人は、少し厳しくてもすぐに手を貸すのではなく、できるまで見守って、達成感や成就感を感じさせてあげることが必要ではないかと感じました。

一人一人の子供たちに秘められた素晴らしい力。それを大事に伸ばしてあげたいと思います。そして、芦田創選手の今後の活躍を、全校で応援していきたいです。